

# 特別支援教育における 「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の 在り方に関する一考察

特別支援教育部 研究員 相根 良平

## 概要

学習評価については、児童生徒自身が学習意欲や価値を実感するという意義がある。特に評価の際には、児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価を行い、主体性や意欲を高めることが大切である。

本研究では児童生徒の主体性や意欲を高める評価の在り方について研究を行った。

文献研究を通して、評価の際の工夫や留意点についてまとめた。

また、文献研究で得た知見をもとに、特別支援学校の授業で行われている評価について研究授業を活用して分析し、その実態と改善点について考察した。

キーワード：特別支援教育，学習評価，学習指導要領，特別支援学校，評価の工夫

## 1 はじめに・研究の目的

学習評価については、学習指導要領（文部科学省 2009、文部科学省 2018）や文部科学省の通知・報告（文部科学省 2010、中央教育審議会 2010）等で繰り返し言及されており、効果的な教育を行うためには不可欠な要素である。また、国立の教育研究機関でも、その評価の在り方については様々な研究がされている（国立教育政策研究所教育課程研究センター2010、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 2014 等）。

特に近年は学校として体系的な学習評価のP D C Aサイクルを行うことや、学習評価をとおしてカリキュラム・マネジメントを行っていくこと等について言及されており（文部科学省 2018、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 2016a 等）、学習評価の研究の重要性はますます高まっている。

一方、学習評価については様々な側面があり、その研究の方向性は様々なものが考えられる。特別支援学校学習指導要領解説総則編（2018）においては、学習評価の充実についてこのように述べている。

(1) 児童又は生徒のよい点や可能性，進歩の状況などを積極的に評価し，学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また，各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して，学習の過程や成果を評価し，指導の改善や学習意欲の向上を図り，資質・能力の育成に生かすようにすること。

この表記からも、学習評価は児童生徒が「学習したことの意義や価値を実感できるようにする」ことと、指導者が「指導の改善や学習の向上を図り、資質・能力の育成に生かす」ことの2つの意義があることがわかる（図1）。

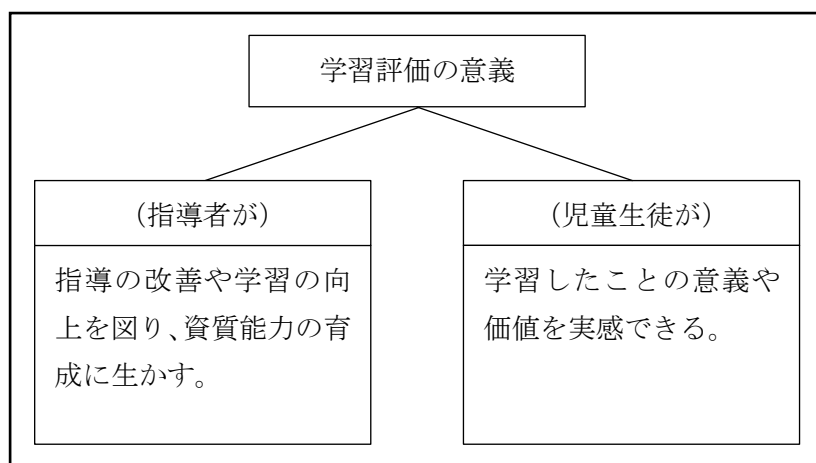


図1 学習評価の意義

また、特別支援学校においては、学習評価の際に、「日ごろの学習活動を通じて児童生徒一人一人の良い点や可能性を積極的に評価し、児童生徒の主体性や意欲を高めるようにすることが重要である。」(文部科学省 2018)とされている。

特別支援学校においては、様々な発達段階や障害の児童生徒が在籍しており、児童生徒の主体性や意欲を高められる評価を行うためには様々な工夫が必要である。しかし、その方法についての研究はほとんど無い。

そこで、今回は学習評価の児童生徒に与える効果の側面に注目して研究を行うこととし、障害のある児童生徒への「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」について、その効果的な方法や在り方について検討する(図2)。

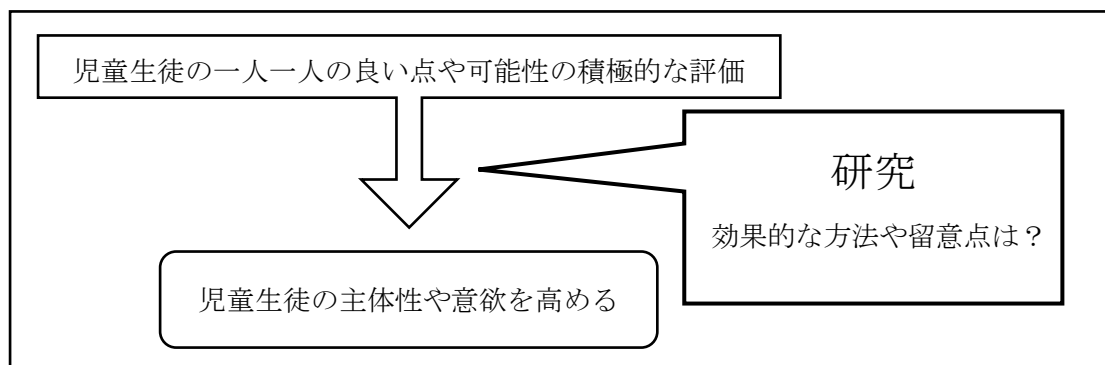


図2 研究のイメージ

## 2 研究の方法

次の二つの方法で実施する。

- (1) 特別支援教育における「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」に関して論じられた文献を集め、効果的な方法や留意点について検討する。
- (2) 京都府内の特別支援学校の研究授業を参観し、特別支援学校で行われている評価の方法について情報を収集し検討する。

## 3 文献研究

- (1) 「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の効果、方法の工夫、留意点の整理

まず、特別支援教育に関係する評価の在り方について言及している資料を集めた。集めた資料を表1にまとめる。

表1 参考文献一覧

- ・石塚謙二（監修）全国特別支援学校知的障害教育校長会（編著）（2012）知的障害教育における学習評価の方法と実際. ジアース教育新社
- ・太田正己（2012）知的障害教育の授業展開「まとめ」をきちんとすれば授業の効果が上がる 学習活動「見直し・振り返り」と評価. ジアース教育新社
- ・京都府立舞鶴支援学校（2014）平成26年研究紀要. <http://www.kyoto-be.ne.jp/maizuru-s/cms/>
- ・中央教育審議会（2010）児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2016b）「育成を目指す資質・能力」を育むための知的障害教育における学習評価の実践ガイド 学習評価の9実践事例を踏まえて. ジアース教育新社
- ・広島県立庄原特別支援学校（著）東内桂子（代表者）（2015）学校が変わる!! 授業が変わる!!「庄原式」授業づくり. ジアース教育新社

これらの文献の中から、「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」に関連が深い語句が複数挙がった。それらの語句及びその定義を整理するために、表2にまとめる。なお、語句の定義についてはそれぞれの文献を参考としているが、元の表記から一部変更を加えている。

表2 語句の整理

語句	定義	参考元
振り返り	児童生徒が授業の中で達成できた点や進歩の状況を確認し、主体的に学ぶ態度を身につけたり、学習意欲を高めたりするもの。	京都府立舞鶴支援学校（2014）
ほめる仕掛け	児童生徒が自分の目標を立てて挑戦する場をつくること。また、友達や保護者・地域の方が児童生徒一人一人のもつ力を認め評価する場をつくること。	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2016b）
自己評価	児童生徒が自分自身の目標に対する進歩の状況の評価すること。	石塚（2012） 京都府立舞鶴支援学校（2014）
相互評価	児童生徒同士がお互いにできた点を認め合うこと。	京都府立舞鶴支援学校（2014） 広島県立庄原特別支援学校（2015）
指導者による評価	児童生徒の達成できた点を指導者が提示し、認めたり称賛したりすること。	京都府立舞鶴支援学校（2014）
まとめ	授業の終末に行われる学習活動であり、学習された事柄が意味をもった事柄にまとまる授業過程の一段階	太田（2012）

これらの語句のうち、「振り返り」「ほめる仕掛け」「自己評価」「相互評価」「指導者による評価」については、評価者、評価場面等に違いはあるが、いずれも児童生徒の自己肯定感を高め、児童生徒が自分で次の課題に気づけるものであり、「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」に当たると考えられる。

そこで、それら5つの語句の説明や留意点等をもとに、「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の方法や在り方についてまとめることとした。まとめたものを表3に示す。

表3 「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の効果、工夫、留意点

「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていくことができる。</li> <li>・生徒自身の自己肯定感が高まり、児童生徒が自らの次の課題に気付くことが促される。</li> <li>・児童生徒が自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲を向上させる。</li> <li>・次の授業への意欲を高める。</li> <li>・学習内容の確実な定着が図られ、各教科等で目指す資質・能力の育成に資する。</li> </ul>	
「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の工夫	
場面（タイミング）の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の評価の場面は1授業に1回とは限らない。</li> <li>・授業の最後に評価を行うだけでなく、活動の区切りごとに評価を行ったり、児童生徒が望ましい行動を行ったらすぐに評価したりする等、様々な評価の場面（タイミング）が考えられる。</li> <li>・また、学年、学期、単元を通してどれだけ成長したかを評価することも考えられる。</li> </ul>
教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や静止画を提示しながら評価をしたり、児童生徒が授業で作った作品を提示しながら評価したり、「振り返りシート」等のワークシートやノート、黒板等を使って評価したりする等の方法が考えられる。</li> <li>・児童生徒の発達段階や授業の内容等に応じて、児童生徒にとってわかりやすい方法で評価を行う。</li> </ul>
評価者の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者による評価だけでなく、友だち同士で評価しあう「相互評価」や、自分自身で自己の評価を行う「自己評価」等の方法が考えられる。</li> <li>・児童生徒の発達段階や授業の内容等に応じて、効果の高い評価者を選択する。</li> </ul>
「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が「目標」や授業の「見通し」をもって授業に取り組み、その目標や見通しに対して評価を行うことで、授業内容の確実な定着につながる。</li> <li>・何を評価するかが大切である。授業目標に関する事柄について評価することで、学習内容の定着を図れる。</li> <li>・指導者の「ひとりよがりのまとめ」にならないよう、児童生徒が理解しやすい方法で実施する必要がある。</li> <li>・評価の機会を計画的に取り入れる工夫をする。</li> <li>・他者との比較ではなく児童生徒の一人一人のもつ良い点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、どれだけ成長したかという点を大切にする。</li> </ul>	

## (2) 文献研究のまとめ

「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」については、「振り返り」「ほめる仕掛け」等様々な文脈で検討されてきたことが分かった。

「児童生徒の一人一人の良い点や可能性の積極的な評価」の効果や、効果を高めるための工夫・留意点について文献研究を通してまとめることができた。

## 4 京都府立特別支援学校の研究授業の参観

### (1) 授業参観の概要

学習評価の在り方をさらに検討するために、京都府立特別支援学校の「各教科等を合わせた指導」の研究授業の参観を6回行った。

研究授業は、児童生徒一人一人をどのように評価しているのか（方法）、何を評価しているのか（内容）、頻度（場面）、そしてその評価が計画的に実施されているか（指導案の記載）等の観点で参観をし、記録をとった。

授業参観の概要を表4に示す。なお、表4にまとめる「評価」については、学級全体で行ったもののみを示す。



授業の中では学級全体で行った評価以外にも、児童生徒一人一人に個別に言葉がけをするなどの個別の評価も見られた。個別の評価について表5にまとめる。なお、中心指導者（T1）のみの発言を記録していたため、中心指導者以外の教員の発言は表5には含まれていない。

また、授業中には「児童生徒の発言を復唱する」ことや「児童生徒に対して微笑む」「無言で優しく肩をたたき励ます」等の指導者の働きかけも見られた。それらの行動は児童生徒に対してポジティブな印象を与えるが、「児童生徒の一人一人の良い点や可能性」を具体的に評価しているわけではないため、今回の参観では「評価」に含めないこととした。

表5 中心指導者の主な個別の評価

学 校	A	B	C	D	E	F
学 部	中学部	小学部	小学部	高等部	小学部	中学部
中心指導者の 主な個別の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(机の上を片付けられたことに対して)「〇〇君。片付けられたね。OKです。」</li> <li>・(プリントに記入していることに対して)「〇〇君。書いていてすごいね」</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(児童の発表に対して)「難しい言葉をよく知っているね」</li> <li>・(児童の挙手に対して)「もうわかったの。早いな」</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(児童の発表に対して)「すばらしい、よく覚えていたね」</li> <li>・(歌を歌う活動の後に)「〇〇君も上手に歌っていたね」</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(児童の発言の後に)「正解です。すごい。」</li> <li>・(児童が進んで役割果たしたことについて)「配ってくれてありがとう」</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒の歌に対して)「上手」</li> </ul>
指導案の 記載	個別の評価についての記載なし	個別の評価についての記載なし	個別の評価についての記載なし	個別の評価についての記載なし	個別の評価についての記載なし	個別の評価についての記載なし

## (2) 学級全体の評価の分析

6つの研究授業の中でみられた学級全体での評価を、文献研究でまとめた評価の工夫や留意点をもとに分析を行った。

### ア 評価の工夫について

評価の場面（タイミング）については、授業の最後に行ったり、活動毎に評価を行ったりする等、児童生徒の実態に応じて工夫されている様子が見られた。

教具については、作業日誌を使ったり、写真を提示しながら振り返りを行ったりする等、児童生徒の実態や授業の内容に応じて工夫されている様子が見られた。

評価者については、指導者による評価が中心であるが、「がんばったこと」を発表したり、個人目標が達成できたかを作業日誌に記入したりする等の自己評価を行っている授業もあった。また、他の児童生徒が拍手をして賞賛する場面もあった。

### イ 授業の目標の提示について

授業の目標を提示した授業は6つの授業のうち、2つであった。

授業の目標を提示した2つの授業については、目標を達成できたかどうかを評価していた。

### ウ 計画的な評価について

全ての研究授業の指導案において、評価についての記載があり、計画的に評価が行われていた。

## エ 多様な側面の評価について

6つの研究授業のうち、4つの授業において児童生徒が発表や歌、ダンスなどが「上手にできたこと」を評価している。

自分が「がんばったこと」を発表する授業が2つあった。

何ができるようになったのか、何が分かったのかなど、児童生徒の成長を評価した授業は2つであった。

## (3) 個別の評価に関する分析

### ア 評価の工夫について

評価の場面（タイミング）については、指導者の指示に応じて児童生徒が行動した時に、行われるものがほとんどであった。

教具は使用されず、言葉がけのみであった。

評価者は指導者のみであった。

### イ 計画的な評価について

学習指導案への記載はどの授業もなかった。

### ウ 評価の回数について

4つの授業で評価の回数は2回以上あった。

Dの授業は全くなく、Fの学校の授業では1回のみであった。

## (4) 授業参観での評価に関する考察

### ア 学級全体の評価に関する考察

特別支援学校の授業の中の評価では、児童生徒の実態や授業の内容に応じて、「場面（タイミング）」「教具」「評価者」等を工夫している実態があることが分かった。

一方、授業の目標を提示している授業は限られており、授業の目標に対しての評価もあまり行われていない実態が分かる。授業の目標を提示し、それに対して評価を行うという流れは、授業内容の確実な定着につながるため、今後意識して実施していく必要があるのではないかと考える。

評価の内容については、「上手にできたこと」や「がんばったこと」の評価が多い。この評価は児童生徒の自己肯定感は向上するが、「何ができるようになったか」は児童生徒が実感しづらいものになっていると考える。単純にできたことやがんばったことを評価するだけでなく、授業を通してどういった成長があったのかを実感できるような評価を検討していく必要があると考える。

授業の目標を提示した2つの授業のみが「何ができるようになったのか」「何がわかったのか」等、児童生徒の成長を評価していることを考慮すると、今後の特別支援学校の評価の改善の視点として、「授業の目標を提示し、それに対しての評価を行い、学習内容の確実な定着につなげる」という視点は重要なのではないかと考える。

### イ 個別の評価に関する考察

個別の評価は、児童生徒が適切な行動をとった時に、タイミング良く行われている。学習の取組を適時評価することで、児童生徒の学習への意欲を高めているのだと考えられる。児童生徒の行動によって評価のタイミングは変わるので、指導案に記載し計画的に行うことは難しいのだと考える。

評価の回数が少なかったDとFの授業は、作業が中心の授業であり、教師の指示が少ない授業であった。そのため、教師の指示→生徒が活動→評価という流れが少なかったためではないかと考える。DとFの授業は教師の指示が少なく、生徒が主体的に取り組んでいた授業だと考えられる。

一方、「自己肯定感を高める」「学習意欲を向上させる」という評価の効果から考えると、生徒が主体的に取り組んでいる授業であっても、評価をすることは一定必要なのではないかと考える。

個別の評価は臨機応変に行う必要があるため、事前に計画を立てておくことは難しい。しかし教師が事前に児童生徒の行動を想像し、どのような行動があったときに評価をするのかを考えておくことは大切ではないかと考える。事前に考えておくことで、タイミング良く評価ができるようになるのではないかと考える。

評価の場面が少なくなりがちな作業を中心とした学習についても、事前に考えておくことで、必要な場面で適時評価ができるのではないかと考える。

## 5 まとめ

本研究では、学習評価の児童生徒に対しての側面に注目して研究を行った。児童生徒の主体性や意欲を高める評価の在り方についてまとめられた文献は現在ほとんど無いため、本研究でその工夫や留意点についてまとめられた意義は大きいと考える。

また、特別支援学校の研究授業の参観を通して、現在の特別支援学校での評価の実態を把握し、その改善の視点を提案することもできた。これについては、今後の特別支援学校の授業改善の一つの視点として活用できるのではないかと考える。

## 6 引用・参考文献

- ・石塚謙二（監修）全国特別支援学校知的障害教育校長会（編著）（2012）知的障害教育における学習評価の方法と実際．ジアース教育新社
- ・太田正己（2012）知的障害教育の授業展開「まとめ」をきちんとすれば授業の効果が上がる 学習活動「見通し・振り返り」と評価．ジアース教育新社
- ・京都府立舞鶴支援学校（2014）平成26年研究紀要．<http://www.kyoto-be.ne.jp/maizuru-s/cms/>
- ・国立教育政策研究所（2010）評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
- ・中央教育審議会（2010）児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2014）知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究－特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じて－
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2016a）知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程の在り方－アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2016b）「育成を目指す資質・能力」を育むための知的障害教育における学習評価の実践ガイド 学習評価の9実践事例を踏まえて．ジアース教育新社
- ・広島県立庄原特別支援学校（著）東内桂子（代表者）（2015）学校が変わる!! 授業が変わる!! 「庄原式」授業づくり．ジアース教育新社
- ・文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則編
- ・文部科学省（2010）「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について
- ・文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説総則編